

Dear地球民

第13号
1994年11月発行

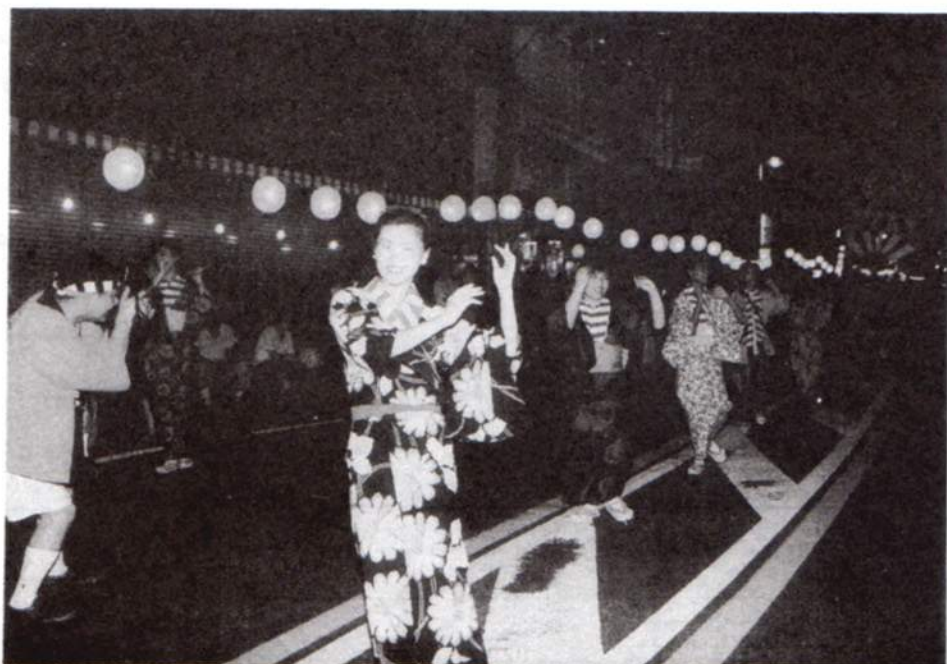
編集発行 ゆがわら国際交流協会
〒259-03 神奈川県足柄下郡湯河原町土肥1-7-1
湯河原町商工会内 ☎0465-63-0111



第9回

やっさ国際交流

ゆがわら国際交流協会のホームステイ交流「やっさ国際交流」は、7月30日から8月6日まで、8日間の日程で行われました。ブラジルからの研修生、日本で日本語や文化を学んでいる、台湾、韓国、香港、エジプト、オーストラリアの学生、オーストラリアから直接来日した中学生の合計19人の海外の青年が、湯河原の家庭に滞在しました。二度目、三度目のベテランホストに交じって、今回、九つものご家族が、ホストファミリーに初めて挑戦してくださいました。「家族の一人として、日本の家庭の普段の生活を体験する」をモットーに、留学生、ホストファミリーともども、言葉の壁をのりこえて異文化理解に奮闘。勿論すべてを容易に理解できる訳ではありませんが、お互いの習慣や考え方の違い、そして共通点を認めることが第一歩。このホームステイ交流が、外国そして日本を考える一つの機会になってくれたらと祈っています。



やっさパレード、ご声援ありがとうございました。

'94 SUMMER 第9回 やっさ国際交流
 ホストファミリーと留学生

牧野 寿夫(吉浜) 佐東 丈介(土肥) 福田 義徳(福浦)
 孫 アンドリュー 啓發(台湾) ヒカルド・ケンジ・ナカマ(ブラジル) 李 珠 演(韓国)

中村 てる子(吉浜)
 莫 婉 妹(香港)

高橋 行雄(小田原市江の浦)
 リー・ヨン・ジェー(韓国)
 サマ・アラファト・アブド・エル・ラゼック(エジプト)
 ケセリー・ムードリィ(オーストラリア)

竹林 徹雄(福浦) 西坂 真理子(吉浜) 服部 一男(土肥)
 サイ・チ・ウン(韓国) ブリオニ・ターナー(オーストラリア) 藤 慧 萍(台湾)

棚橋 由香利(鍛冶屋)
 デイゼ・クリスチーナ・アイカワ(ブラジル)

高杉 留美子(土肥)
 アウグスト・タクタ・キタジマ(ブラジル)

前田 正義(吉浜) 杉山 道隆(宮上) 瀬野 由紀(吉浜)
 羅 祥 玲(台湾) アルバロ・サダシ・イトウ(ブラジル) 李 惠 廉(香港)

鳥光 弘孝(土肥) 竹林 勇(真鶴)
 ダナーザ・ベント・グウラール(ブラジル) ジェンコ・ナカハラ(ブラジル)

木村 誠一(吉浜) 浜野 英治(吉浜)
 キャサリン・モア(オーストラリア) シジネイ・シェケル・フェハイラ・フィーリオ(ブラジル)



第9回やっさ国際交流スケジュール

- 7/30(土)湯河原駅にて出迎え 開講式
 ジャズコンサート会場にて歓迎会
 31(日)幕山ハイキング やっさ踊り練習
 8/ 1(月)吉浜海岸にて花火大会見学
 2(火)やっさパレード参加
 5(金)夜、手作り料理持ち寄りでお別れパーティー
 6(土)閉講式 駅ホームにて見送り

わたしたちの熱い夏の思い出... ホームステイ

.....寄せられた感想文から.....

主人が病後であることや、老人二人暮らしであることに対して、若い学生が楽しく過ごせるか大変心配でした。しかし我が家の李さん（韓国）は、日本語が堪能で、この上なく性格が明るく、頭の回転がよく、すぐに我が家のスターとして輝いてくれました。また、いろいろな国の文化、言語、習慣の違いを乗り越えて、一番大切なものはハートであることも痛感いたしました。多くの学生が我が家のイベントに興味を示してくれましたので、彼らが成人した時に、きっとこの思い出は心の一頁に記録されるであろうと思うと、真夏の一番の清涼剤の役割を果たした思いです。（協会注：8月3日夜、福浦の醍醐院様～ご住職福田さん～が、留学生のために座禅と茶道・華道の学習会を催してくださいました。）最後に湯河原在住のいろいろな方と知り合い、またお力添えを頂いて、無事お役がとまりましたことを、お礼申したいと存じます。 （ホストファミリー、福田 義徳）

シジネイ君（ブラジル）は、英語がすばらしく上手でした。主人と私と、泊まりに来ていた弟夫婦と、夜中の3時頃まで、日本の英語教育の改善について討論をした程です。昨年お預かりしたマサミ君同様、シジネイ君も秀才タイプなのですが、シジネイ君のお母様も厳しい教育ママだったと聞いて、笑ってしまいました。シジネイ君の趣味はサッカーだということで、吉浜小学校で小学生のサッカークラブの部員と一緒に練習や試合をしていたのですが、ゴールキーパーをして下さって、足は傷だらけです。一人一人の子供を、熱心に頭を撫でてほめていました。最初は、知らない外人を警戒していた子供達も、3時間後には、喜んで一枚の写真に収まりました。私達家族を含め、たくさんの人が、彼に感謝しているのではないのでしょうか。 （ホストファミリー、浜野 ゆかり）



湯河原駅でホストの西坂さんの出迎えを受けるブリオニーさん（オーストラリア）
西坂さんのお家は八百屋さんで、彼女はお店の手伝いもよくしてくれたそうです。

湯河原には、たくさん訪れるところがあったので、たくさんものを見ました。会う人は、みんなとても親しみやすく、リラックスできました。また湯河原に帰ってきたいです。私の家族は、とても親切で、一緒にいて心安まりました。やっさパレードは、すばらしかった。今まで“ゆかた”を着て伝統的な踊りをしたことがなかったので、すごく楽しかったです。

(キャサリン・モア、オーストラリア)

出迎に行き遅れて来たときは、少しがっかり致しました。一週間どうなるのかと不安になりました。主人も(夫婦ともども)明るい性格なので、祥玲(台湾)が早く慣れてくれて良かったです。あまり強行なスケジュールではなくフリーな時が多かったため、彼女も少しは勉強が出来たようです。幕山のハイキングは少しきつと感じました。飲み物がなかったのでバテぎみになりました。彼女は料理が好きで、家にある物で、この一週間、朝、昼、晩と作っては、私たちや、となりの父母、姉夫婦、弟夫婦にも食べさせてくれました。とってもおいしかったです。あまり外には出ず、家族で食事をしながら、毎日遅くまで、いろいろな話をしました。彼女もそれが一番いいと言うことで、そのようになりましたが、今の日本の家族、家庭において何か忘れかけているものを、彼女に教えられたことは感謝します。初めてのホームステイを受けラッキーだったと思います。主人曰く、「湯河原 残る 祥玲。お母さん 帰る 台湾へ！」

(ホストファミリー、前田 牧子)

いろいろ勉強しました。有名な所へも遊びに行きました。ホストの中村様は、とても親切。私は、この一週間とても楽しかった。湯河原に来年もう一度来るつもりです。外人が知らないことを、ここで勉強させてもらいました。今回のホームステイは一生忘れない。学校へ、国へ帰ったら、友達に紹介します。湯河原はいいところです。そして交流協会のスタッフの方、ありがとうございました(非常感謝)。では、さようなら。機会があれば、来年皆さんと会いましょう。

(莫 婉 妹、香港)



開講式にて
香港の李惠廉(リー・ワイリム)さんと
ホストファミリーの瀬野さんご一家

今回初めてホストファミリーになってみましたが、どんな人がくるのか、どういうふうに出むかえようか少し不安でした。でも、ジュンコ（ブラジル）に会って、そんな心配はなくなり、すぐに家族ととけこみました。日本語はペラペラなので、難しい内容の話もたくさん出来、とても明るいので家族中がもっと明るくなり、私は姉妹のように色々な相談をしました。ジュンコが今年の夏、私の家に来てくれて、本当によかったです。一生忘れない夏になりました。あっと言う間に過ぎた8日間でしたが、最高に楽しかったです。

（ホストファミリー、竹林 明里）

知らない人と一緒に過ごすのは初めてでしたが、彼らの家に行ったとき、彼らがとっても立派で親切な人達だと分かりました。そして、日本と日本人に対して、いい印象を受けました。これから私は、エジプトの自分の家族の元へ発ちますが、日本にもう一つの家族をもったことを確信しています。

（サマ・アラファト・アブ・エル・ラゼク、エジプト）

アルバロ君は、昼間はブラジルの東京海上火災で働き、夜はサンパウロ大学で物理学の勉強をしています。物理学は一生続けたいのだそうです。ブラジルの青年が、仕事に、勉強に、真剣に取り組んでいる様子を知りました。現在の日本を築いた努力家の若者たちがたくさん居た、少し前の日本を見るようでした。豊かだと言われている日本を、心にも体にもいっぱい詰めこんだであろう、彼等の将来が楽しみです。「飛行機で24時間かかっても、いつかきっと、お父さんと訪ねて行くからね。年寄りがふたり、うろうろしていたら、やさしく迎えてね。」と言ってあります。いただきもののお赤飯を、とても喜んでいたので、お別れの昼食は、お赤飯にしました。日本では、ハッピーな時に食べる、悲しい時には食べない、と教えました。今日は悲しい日だけれど、留学生たちの前途を祝して

SAÚDE!（乾杯）

（ホストファミリー、杉山 里美）



幕山公園にて、お母さん手作りのお弁当をご相伴
左より李さん（韓国）、福田さん、孫君（台湾）、
牧野さん、前田さん、羅さん（台湾）、滕さん（台湾）

ホストファミリーをお願いされたとき、とてもむずかしく考えておりましたが、台湾の藤さんが家へまいりまして一週間、本当に楽しい毎日でした。よくお手伝いをしてくれますが、何かお手伝いさん代わりに働かせているようで、心苦しく思いました。子供達が大きくなり、一緒にいることの少ない毎日ですが、「お父さん、お父さん」と、身の不自由な主人を大切にしてくれ、今までこんなうれしそうな主人を見たことがありません。夏休みが終わるまででも泊まってほしいと思っています。

(ホストファミリー、服部 一男)

このような素敵な行事に参加することになり、本当に大きな幸せだったと思います。湯河原は、とても綺麗な町だと思います。このような景色のよい美しい所で生活されている人達は、また皆親切で心の優しい方々だと感じました。私を、我が娘のように大切に下さった竹林家の皆様、この場を借りてもう一度感謝申し上げます。また、この行事のため色々とお苦勞なされた皆様にも感謝しています。近くて遠い国、よく知らなかった日本に対して、たくさんのお話を習い感じた貴重な体験になりました。皆様に、とても感謝しています。

(サイ・チ・ウン、韓国)

湯河原でのホームステイは、本当にすばらしかった。とても短い期間でしたけれども、私たちは、この一週間で夢中に過ごしました。日本の家庭の文化や、普段の生活について学びました。私たちが受けた親切なもてなしに、とても感動しました。また、自分の町、国、そしてブラジル文化を紹介する機会が持てたことも、とても嬉しいです。このすばらしい一週間のすべてに、心から感謝しています。新しい家族ができたように感じます。

(ヒカルド・ケンジ・ナカマ、ブラジル)



海浜公園にてジャズフェスティバルを楽しむ
左よりサイさん(韓国)、サマーさん(エジプト)
リー君(韓国)。心地よいリズムにワンダフル!



仰げば尊し我が師の恩



古く伝統的なテーマを今回敢えて取り上げてみた。

古いものは全て悪いという変な時代が続いたが、いま改めてみなおされてきたことは嬉しい。

このタイトルから私は二人の恩師をピックアップした。一人はオーストラリア人の英語の先生、一人は昔の東京外語出身の若干22歳の青年の英語の先生である。

私が中学三年生の時にオーストラリア人の会話の先生が赴任してきた。当時は勿論戦前のことだから、大変めずらしいことで、第一時間目の時だけ、外語出の先生と一緒に教室に顔を出し、紹介があった。次の時間には一人で来て、いきなり英語で話が始まった。勿論生徒は英語がわかる訳がないのに、彼は構わず、今から思えば自己紹介から始まったのだろう。

やんちゃ盛りの中学生在が、訳のわからない英語を使われて、当然すぐ飽きてガヤガヤと騒ぎ始めたが、彼はその雰囲気ですばやく察知して、ポケットから万年筆（古い言葉だが）みたいなものを取り出した。それは合唱用のタクトで、アメリカのフォークソングを黒板に書き出したのである。題はフォスターの“懐かしのケンタッキーホーム”で、太り気味の先生が優しい声で唄って聞かせてくれた。それ以来、毎回黒板に歌を書き、たくさんのフォスターの歌を教わったのである。

歌を通して英語になじむ方法があるのを私は経験し、大変幸いであった記憶があり、今でも私のレパートリーになっている。

今回、国際交流協会でオーストラリア旅行が計画され、是非とも参加したかったが、果たせず残念だった。まず頭に浮かんだのは、ひょっとして、その先生がご存命なのは、ということだった。探しようもないのは分かっていたが、メンバーのNさんに夢のような話をしてみた。すると彼女から、「面白いから何とか伝を探してみよう」と申し出があり、日本人の経営しているラジオ局があるのを聞き出して、コネをつけるよう努力して頂いた。結果は今のところ分からないが、こんな話があっても良いではないか。Nさんの協力に感謝しているが、ともあれ、夢のある話題にしたかった。実現すれば、なお面白い話になるのだが……

さて、前に出てきた外語出のT先生の思い出も一筆したい。

彼の英語力は、抜群のものだった記憶がある。しかし、彼の英語の時間の半分はフランスの詩の紹介だった。ヴェルレーヌの“秋の歌”（上田敏訳）に自己流に音符をつけ、まるで音楽の授業そのものである。昔は、音楽という科目はなかったが、毎回歌を唄わせてくれた。大変ポピュラーな詩で、ご存じの方も多いと思うが、歌詞は次の通りだった。

秋の日の／ヴィオロンの／ためいきの／身にしみて／ひたぶるに／うら悲し。

鐘のおとに／胸ふたぎ／色かへて／涙ぐむ／過ぎし日の／おもひでや。

げにわれは／うらぶれて／ここかしこ／さだめなく／とび散らふ／落葉かな。

その音律のアレンジは、現代のシャンソンの曲にしても立派に通る名曲だったと思う。

私が言いたいのは、最も多感な中学生の時代の思い出として、少しも古くない（私の勝手な解釈かも知れないが）歌を通じて、よき時代を語れるのは、大変幸せだったことだ。文明が進む一方で、なにか世の中が、がさつになってしまったような気がしてならない。どうか、年寄りの単なるセンチメンタリズムと取らないでほしい。

《石井 宏樹》